

Title	二十世紀中國大陸的土地調查事業及農村社會
Author(s)	片山, 剛
Citation	
Issue Date	
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/27270">http://hdl.handle.net/11094/27270</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## 二十世紀中國大陸的土地調查事業及農村社會

片山 剛\*

由於引進現代化技術和器材，培養專業技術人員等理由，現代的土地調查事業是需要巨額經費和長時間的一個大規模的項目。隨著調查事業的進行，公權力和農村社會之間會產生衝突，農民之間會引起爭論。這是因為調查事業對公權力和農村社會的關係帶來變化，或在農民社會產生有關權利關係的新火種。本報告以報告者近幾年所收集的資料為中心，將介紹二十世紀前半國民黨在中國大陸進行的土地調查事業的軌跡，並通過這次研究將探討當時的農村社會的實際情況。

所介紹的第一個資料是 1934 年前後被繪製的廣東省田畝調查冊（國立中央圖書館台灣分館收藏）。這是陳濟棠等國民黨西南派統治廣東省時，讓省內各鄉鄉長繪製的調查冊。其內容由各鄉管轄內的所有耕地的面積、業戶名、佃戶名等數據以及表示其位置的地圖來構成。研究本調查冊的有關資料，可以看出對 A 鄉主張的自己管轄內耕地，鄰接的 B 鄉進行反論的情況。本報告以這樣的事例為端緒，將探討研究當時的廣東省農村各鄉的境界。

下一個資料是 1947 年左右被測繪的以南京市郊外的江心洲為對象的地籍公布圖（國史館收藏）。46 年 11 月江心洲被指定「扶植自耕農實驗區」，自 47 年起依次實施以扶植自耕農為目標的政策。這張地籍公布圖也是這種政策的一環而測繪的。本地籍公布圖作為地籍圖比較罕見，不僅記載著「業權＝田底權」的保有者名，還記載著「永佃權＝田面權」的保有者名。本報告用這張地籍公布圖的有關資料，將探討研究江心洲的「業權」「永佃權」等權利的形成史以及諸權利的分布狀況，並考察當時的南京市政府是要怎樣處理「業權」「永佃權」問題的。

根據以上的研究結果，不得不判斷廣東省田畝調查冊作為現代的土地調查成果是完成度較低的。但是可以明顯看到包括國民黨西南派，國民黨對土地資源具有正確並網羅地把握和管理的志向。

跟國民黨相比，1949 年以後的共產黨沒有實行測量等土地調查就完成了土地改革。最後將對 1949 年以後的共產黨政策所占的位置做出簡單的評估。

\* 大阪大學大學院文學研究科教授。

## 20 世紀中國大陸における土地調査事業と農村社会

片山 剛\*

近代的土地調査事業は、近代的技術・器材の導入や専門技術者の養成など、巨額の経費と長大な時間を必要とする一大プロジェクトである。そして、調査事業の進行に伴って、公権力と農村社会との間で軋轢が生じたり、農民の間で争論が起きたりする場合もある。これは、調査事業が公権力と農村社会との関係のあり方に変容をもたらしたり、あるいは権利関係における新たな火種を農民の間に生み出したりするからである。本報告では、20 世紀前半の中国大陆において国民党が実施した土地調査事業の軌跡を、報告者が収集した資料を中心に紹介するとともに、この作業を通じて、当時の農村社会の実像を浮かびあがらせることにしたい。

最初に紹介する資料は、1934 年前後に作成された広東省田畝調査冊（国立中央図書館台湾分館所蔵）である。これは、陳済棠等の国民党西南派が広東省を実効支配している時に、省内各郷の郷長に作成させたものである。その内容は、各郷の管轄内に所在するすべての耕地について、その面積・業戸名・佃戸名などのデータとその位置を示す地図とから成る。本調査冊に関連する資料を検討すると、A郷が自己の管轄内に所在すると主張している耕地に対して、隣接するB郷が反論を加えている場合がある。そこで本報告では、かかる事例を手がかりに、当時の広東省農村における郷の境界について検討する。

次に紹介する資料は、1947 年ごろに作成された南京市郊外の江心洲を対象とする地籍公布図（国史館所蔵）である。江心洲は 46 年 11 月に「扶植自耕農実験区」に指定され、47 年から自耕農育成へ向けた政策が順次実施されていく。この地籍公布図もかかる政策の一環として作製されたものである。本地籍公布図は、地籍図としては珍しく、「業権＝田底権」の所有者名のみならず、「永佃権＝田面権」の所有者名も記載している。本報告では、この地籍公布図と関連する資料とを用いて、江心洲における「業権」や「永佃権」などの諸権利が形成された歴史ならびに当時の分布状況を検討し、また、当時の南京市政府が「業権」や「永佃権」をどのように処理しようと考えていたのかを考察する。

以上の検討の結果、広東省田畝調査冊は、近代的土地調査の成果としては完

\* 大阪大學大学院文學研究科教授。

成度の低いものといわざるをえない。しかし、国民党西南派を含めて、国民党が土地資源に対する正確で網羅的な把握・管理を志向していたことは判明する。

国民党と対比した場合、測量などの土地調査をほとんど実施せずに土地改革を遂行した1949年以降の共産党をどのように性格づけることができるか、最後にこの問題に若干言及することにしたい。